

## 第3期高知県産業振興計画の総括（案）

高知県では、県経済が抱える積年の課題に正面から向き合い、経済を根本から元気にするためのトータルプランとして、「高知県産業振興計画」を策定し、平成21年度から官民一丸となって県勢浮揚に挑戦してきました。

平成28年度からスタートした第3期計画については、昨年9月末までに市町村や産業団体との意見交換を実施し、実行3年半の取り組みの総括を行ったところです。

その中で出てきた課題をもとに、広範な議論を通して、これまでの11年間の取り組みを土台に、各種の施策をさらに強化・発展させた第4期計画を本年3月に策定しました。

今回、昨年9月に行った実行3年半の取り組みの総括に昨年度末までの成果を含め、改めて、第3期計画4年間の取り組みの評価や今後の展開などを取りまとめました。

令和2年9月

高 知 県

## ■ 林業分野

製材加工施設や CLT 用ラミナ工場の整備などにより、森の資源を余すことなく活用する仕組みがさらに充実。TOSAZAI センターの設立により、県産材の外商体制を大幅に強化するとともに、林業大学の開校により、担い手の育成・確保が進む。

原木生産量は目標の 78 万<sup>m</sup>には届かないものの、原木生産量や木材・木製品製造業出荷額等の増加傾向が続く。

▽ 原木生産量の推移（単位：万<sup>m</sup>） H20→R 元 +60.5%

H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
41.8	42.0	40.4	50.7	46.5	49.5	61.0	59.2
H28	H29	H30	R 元				
62.8	66.8	64.6	67.1				

### [原木生産のさらなる拡大]

○効率的・計画的に原木生産を行う「森の工場」を整備

▶森の工場 H20:23,483ha → H27:65,980ha → R 元:74,334ha

○高性能林業機械等の導入や 10t トラック道の整備による生産性の向上

○森林組合における生産性の改善を図るため、支援ワーキング等を開催

▶支援組合:21 組合 (H28~R 元)

○皆伐跡地の再造林を促進

▶再造林面積 H22:175ha → H27:162ha → R 元:250ha

### [加工体制の強化・木材需要の拡大]

○製材工場の強化

▶新たな大型製材工場の稼働 (H28)

○高次加工施設の整備

▶集成材工場の稼働 (H29)

○住宅・低層非住宅における木材利用の促進

▶戸建て住宅の木造率 H20:83% → H27:92% → H30:93%

▶TOSAZAI センターに非住宅木造建築の提案相談窓口を設置 (H30)

○木質バイオマスボイラー導入の促進

▶木質バイオマスボイラー導入台数 H20:21 台 → R 元:286 台

▶県内 2 ヲ所で木質バイオマス発電所が稼働 (H27)

### [流通・販売体制の確立]

○流通拠点（26カ所）を活用した土佐材出荷量の拡大

▶トレーラー等による定期輸送 H22:956 m<sup>3</sup> → R元:8,187 m<sup>3</sup>

○TOSAZAI センターと全国レベルの木造建築の専門家集団との連携による積極的な提案・営業と施主の理解醸成

▶TOSAZAI センターに非住宅木造建築の提案相談窓口を設置（H30）（再掲）

○土佐材パートナー企業による県外での土佐材住宅の建築推進

▶県外での土佐材住宅の建築棟数 H23:82 棟 → R元:159 棟

○木材輸出に関する情報を収集と県内事業者への提供・営業活動等への支援

▶土佐材製材品の輸出量 H22:579 m<sup>3</sup> → R元:2,078 m<sup>3</sup>

### [担い手育成・確保]

○H27年度に林業学校として基礎課程と短期課程を先行開校

○H30年4月初代校長に隈研吾氏を迎え林業大学校として本格開校。新たに専攻課程を設置し、林業のエキスパートから木造建築士まで幅広い人材を育成

▶短期課程受講者数 7,726 人（H27～R元）

▶基礎課程受講者数 98 人（H27～R元）

▶専攻課程受講者 31 人（H30～R元）

○こうちフォレストスクールの開催等、きめ細かな担い手育成・確保の強化

▶フォレストスクール参加者数 H29:47 人 → R元:71 人

#### 《さらなる挑戦》

□原木生産のさらなる拡大

・労働生産性の向上による事業地の拡大、皆伐の促進、集約化の取り組み強化

□木材産業のイノベーション戦略

・高品質な製材品の供給体制の整備、高付加価値製品の開発

□建築士等及び施主に向けた戦略的アプローチ

・木造建築に精通した建築士等の育成、施主の木材使用に関する理解の醸成

□担い手の育成・確保

・林業大学校の充実・強化、林業事業者の経営基盤の強化



#### 《第4期計画における4年後の目標》

○木材・木製品製造業出荷額等:228億円以上

○原木生産量:79万m<sup>3</sup>以上